

令和元年度 「文化行政調査研究」

文化芸術の経済的・社会的影響の  
数値評価に向けた  
調査研究報告書  
【概要版】

# はじめに

## 調査の概要

**【課題1】** 平成30年度の我が国のCSAの仮集計が国際基準に適合しているかどうかを国際的にモニタリングし、未推計部分をなくし、完成度を高める

- ① 国際基準に適合しているかの国際的モニタリング  
既推計部分で、その推計手法がユネスコの推奨する手法に適合しているかどうかの検証。
- ② 未推計部分の完成  
ユネスコが提示する文化の枠組み内で、推計できていない部分を推計するための区分と手法の確認。

**【課題2】** CSAのさらなる充実に向けて、我が国が考えるCSAの拡充の方途に対する国際レベルでの評価の確認

- ③ 我が国独自部分の設定とその評価  
我が国が必要とする文化の数値評価において、ユネスコが提示するCSAの枠組みを越えて我が国独自の部分を追加する必要がある。その考え方と数値化の手法が、国際的な基準に照らして妥当であるかどうかの評価を得る。

## 調査対象

- ① **ユネスコ（ユネスコ統計研究所：UIS）**
  - ・ CSA作成の国際的リーダーシップをとり、国際基準の設定や、技術・手法に関するガイドラインを提供し、CSAの推進と向上を図っている。
- ② **CAB（Convenio de Andrés Bello）**  
アンドレス・ベージョ協定
  - ・ ラテンアメリカにおけるユネスコのような国際的教育・文化推進機関であり、ラテンアメリカでのCSA作成のリーダーシップをとっている。
- ③ **カナダ**
  - ・ カナダ統計局とカナダ文化遺産省が連携してCSAを作成している。
  - ・ ユネスコの技術諮問などに関しても中心的な役割を果たしている。
- ④ **コロンビア**
  - ・ ラテンアメリカでCSAに早くから積極的に取り組んだ国で、CABでも中心的な役割を果たした。

図1 今年度の課題の概念図

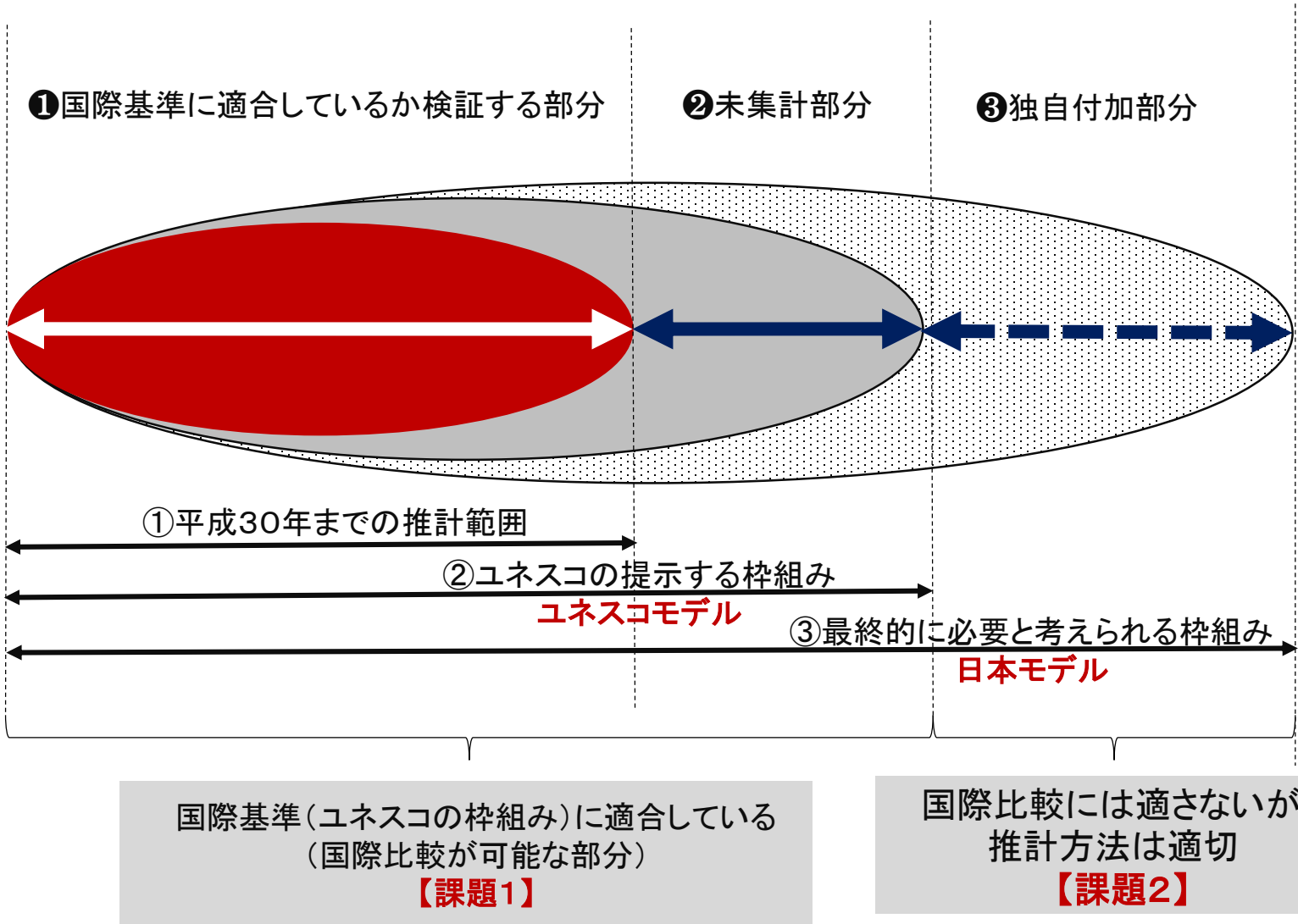


図2 我が国の文化GDP推計状況

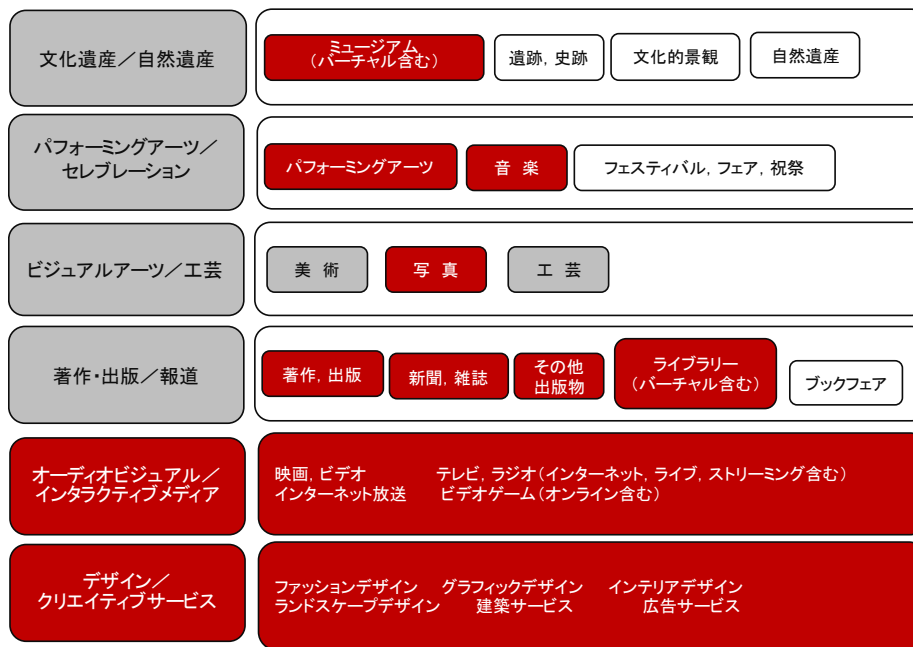


## 1. UISの基本的な考え方

- 本調査研究の【課題1】であるユネスコモデルに準拠し、国際基準に適合したCSAの作成については、UISとの協議を通じて、基本的に現在**我々が進めている方向性に大きなブレはない**ことが確認できた。
- ユネスコの枠組みである2009FCS及び現在検討されている2017FCSについても、**ユネスコモデルは「CSAのルールではなく“念頭に置くべきガイドライン”として提示されている**ものであって、その枠組みから大きくそれないのであれば、**各国の統計環境等に合わせながら柔軟に対応してもよい**、ある程度の組み換えは自由であるということを確認した。

## 2. 【課題1】への対応 ～「ユネスコモデルでの文化GDPの推計」の方向性～

UISとの各ドメインの推計手法に関する協議と先行国等を参考に、今後、我が国の文化GDPの推計は、ユネスコモデルに即して、以下のような方向で進めることが妥当である。



### 既推計部分

ここまで用いたデータや手法で可とする。

### 部分推計部分

- 美術：従来通り。
- 工芸：我が国の工芸分野の実情，統計環境に即して推計する。

### 未推計部分

- 遺跡・史跡：国等の指定する遺跡・史跡について，その維持・管理費，補助金等から推計する。
- 文化的景観：同上
- 自然遺産：枠組みから除く
- フェスティバル，フェア，祝祭：データがあり，推計可能なものを加える。
- ブックフェア：枠組みから除く

### 3. 【課題2】への対応

#### ～我が国独自ドメインの追加による日本モデルのCSA～

##### ■独自ドメインの必要性

我が国では、「和食の文化」がユネスコの無形文化遺産に登録され、次のユネスコ無形文化遺産の候補には「風流踊」が選ばれるなど、幅広い無形文化遺産に対する文化政策ニーズも高まっているが、これらの**無形文化や生活文化は基本的にユネスコのCSAの枠組みには入っていない。無形文化は我が国独自のドメインとしてCSAにおいて必要である。**

##### ■独自ドメインに対するUISの見解

順次多様な無形文化や生活文化をCSAの中に組み込んでいくという我々の考え方に対して、「**国内バージョン**」として**独自ドメインをCSAに加えてもよいという示唆を得た**。そうした例には、カナダでのスポーツ、コロンビアの食などがある。この独自ドメインは国内バージョンとして取り扱うことで、国際比較にも影響を及ぼさない。

##### ■独自ドメインの推計手法

問題は、その推計手法で、この点でUISも先行国も悩んでいること、あるいは手法の検討をしていることも明らかになった。我々は、手法の1つとして、茶道等の文化GDP推計で用いたFD（Final Demand－最終需要）法と呼ぶ需要側からの付加価値推計のアプローチを各機関・各国に提案し、その評価を求めたところである。**生産側からのアプローチを軸にCSA作成を進めてきたUISやカナダにとって需要側からのアプローチは新しい提案であった。したがってその最終的な評価はある意味で保留されたが、方向性、可能性としては理解を得ることができた。UISはその開発を期待して見守るというスタンスであった。**

なお、UISが言うように、国際比較バージョンにこのドメインを含めるかどうかは、今後の検討課題である。

## 4. 我が国のCSAの今後の展望

### (1) アカウント（勘定）としての完成

現在の我々の作業は、ユネスコモデルのCSAの枠組みで文化GDPを推計している段階である。しかし、CSAはその名のとおり文化サテライト「アカウント（勘定）」である。文化GDPの推計をもって終わる作業ではない。政策立案に有益な統計を含む勘定体系とすることが目標である。

**世界のCSAの先行国の多くは、我々の現時点の成果である、生産表の生産側GDP（または分配側GDP）の推計に加えて、支出表と雇用表を3点セットとし、この3点セットをもって「アカウント（勘定）」としている。**

このように生産・支出表に、雇用や国際貿易収支などの勘定を加えればCSAは充実していき、CSAの指標は文化GDPだけにとどまらず、様々な指標が推計され、CSAの機能性・有用性を高めることができる。

#### ①生産表（生産と付加価値）

産業→

中間投入
付加価値 (文化GDP)
純生産額（産業ベース）

#### ②支出表（需要と分配・輸出入）

(産業)

商品・サービス↓	中間需要	国内最終需要	輸出ー輸入	総生産額 (商品ベース)

#### ③雇用マトリックス（雇用創出）

産業→

職業↓					
	産業別・職業別雇用数				



## (2) 需要側からのアプローチ

文化活動を生産側からのみとらえることには限界がある。今後は、需要側（消費）側からも文化をとらえることが必要になる。経済分野での需要は、最終的には家計消費支出、民間非営利団体消費支出、政府消費支出などに区分される。このうち文化支出は家計消費支出が大きな割合を占めている。需要側からのアプローチでは、家計消費からのアプローチが最も重要である。

家計消費支出から文化消費をとらえ、文化GDPに反映させる手法は、平成29年度の調査研究で「日本酒」と「茶道」のケーススタディで試行している。こうした**実績をもとに、需要側から文化をとらえ、より広く文化の数値評価システムを充実させていく必要がある。**

これに加えて、国民の文化参加、文化支出、生活時間などの文化統計自体も充実していけば、文化と経済に関する政策のさらに的確なロジックモデル検討の土台としていくことができる。

## (3) 波及効果への展開

**CSAで文化の中身（組成）の把握を行い、さらにそれをベースにより経済波及効果の視点を加えれば、広く文化の生態系（関係性）を把握することができ、文化政策の考え方も幅広いものになる。**

TSAでも、サテライト勘定部分と波及効果部分の2本立てとなっている。文化においてもCSAの作成と合わせて波及効果部分が構築されれば、文化芸術の経済的・社会的影響の数値評価の基盤はいっそう豊かなものとなっていくと考えられる。

## (4) グローバルコミュニティの一員としての推進

現在、UISを核として、CSAに関するグローバルコミュニティが形成されている。我が国は、これまで東京・鎌倉のUIS/TAGミーティングにオブザーバーとして参加していたが、**今年度の調査研究を通じて、本格的にCSAのグローバルコミュニティの一員に加わる足場ができた。**

グローバルコミュニティの一員としてのCSA作成への参加は、その必要条件として国際的な情報発信が求められる。今年度の調査研究で、初めて本格的に英文によって我が国からの情報発信が行われたが、今後とも国際的な情報発信を進め、**CSAグローバルコミュニティの一員としてそのプレゼンスを保持・強化していく必要がある。**

また、アジア諸国ではCSAをはじめとする文化と経済を結ぶ取り組みはこれからの課題となっている。**UISが世界で果たした役割や、CABが中南米で果たした役割を日本がアジアで果たしていくことも考えられる。**具体的には、我が国のCSAへの取り組みの情報発信、アジアにおけるCSA開発につながる国際的な学会等での我が国の成果の発表・紹介や、各国でのCSAへの取り組み推進の呼びかけ、協力などが考えられる。

## (5) CSAの成果の普及

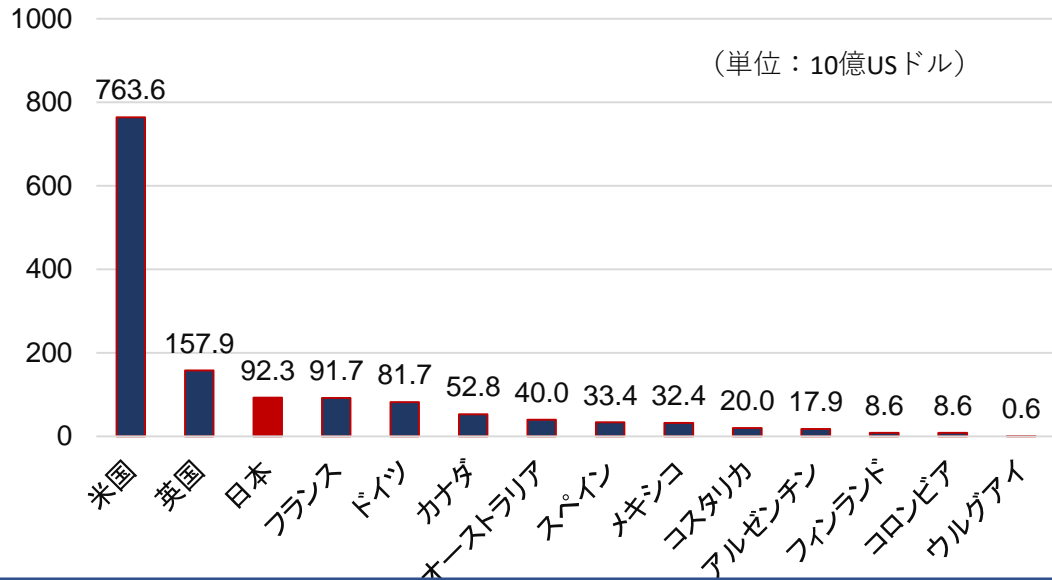
CSA作成の目的はEBPMのツールとすることが第1であり、その中心的ユーザーは文化政策の立案・推進者であるが、それと同時に、文化の経済へのインパクトを数値化し、「見える化」することで、社会が文化をより重視するようになり、文化政策の推進に対する理解と同意を強化していくことができる。例えばカナダなどでは、CSAの成果はビジュアルでわかりやすい形で社会全体にフィードバックされている。文化のステークホルダーは参加・消費・創造・生産を通じて文化活動をする人々すべてであるから、このフィードバックは重要である。**我が国でもCSAの成果について、社会が共有できるような普及活動が重要である。**

# 資料編：世界のCSA

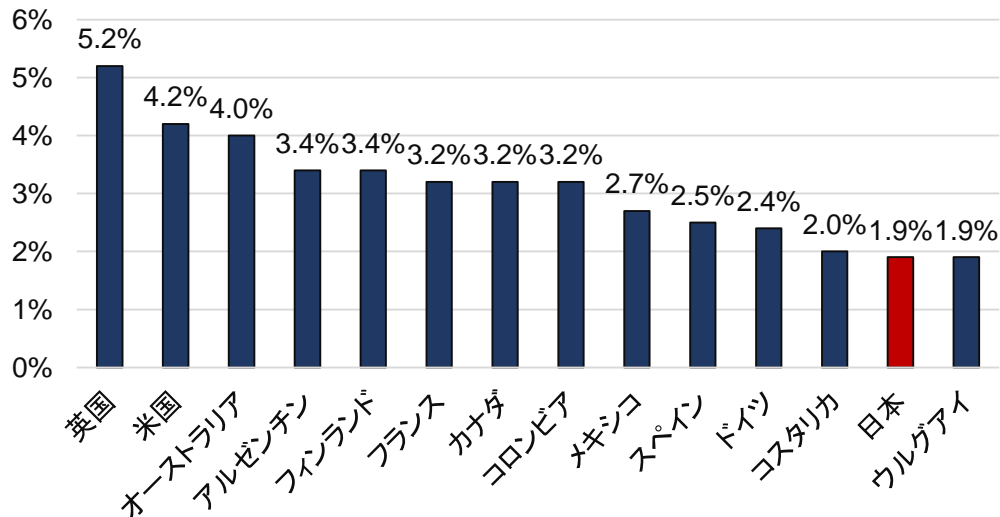
## 1. 世界のCSA作成状況



## 2. 諸外国の文化GDP



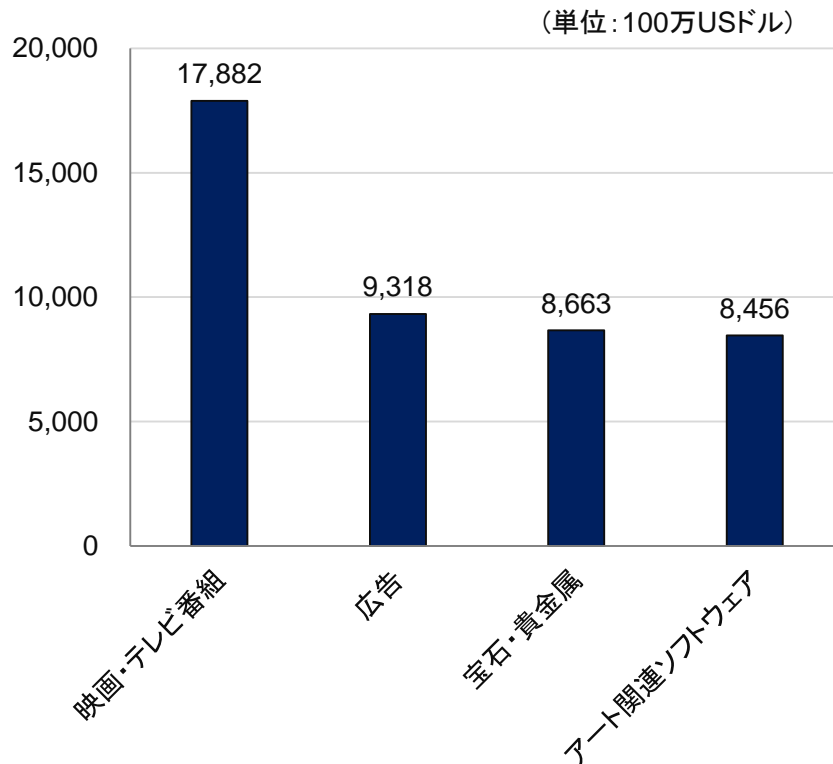
## 3. 諸外国の国全体のGDPに占める文化GDPの割合



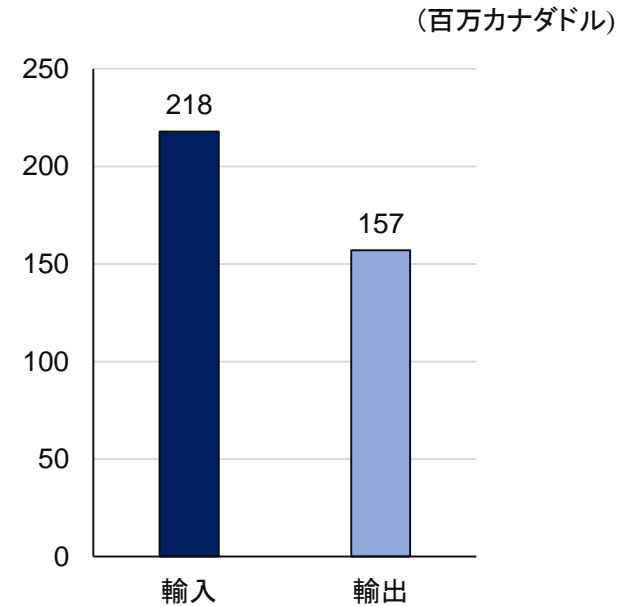
我が国は「文化GDPの金額は上位であるものの、対GDP比率は下位」

## 4. 文化の国際収支

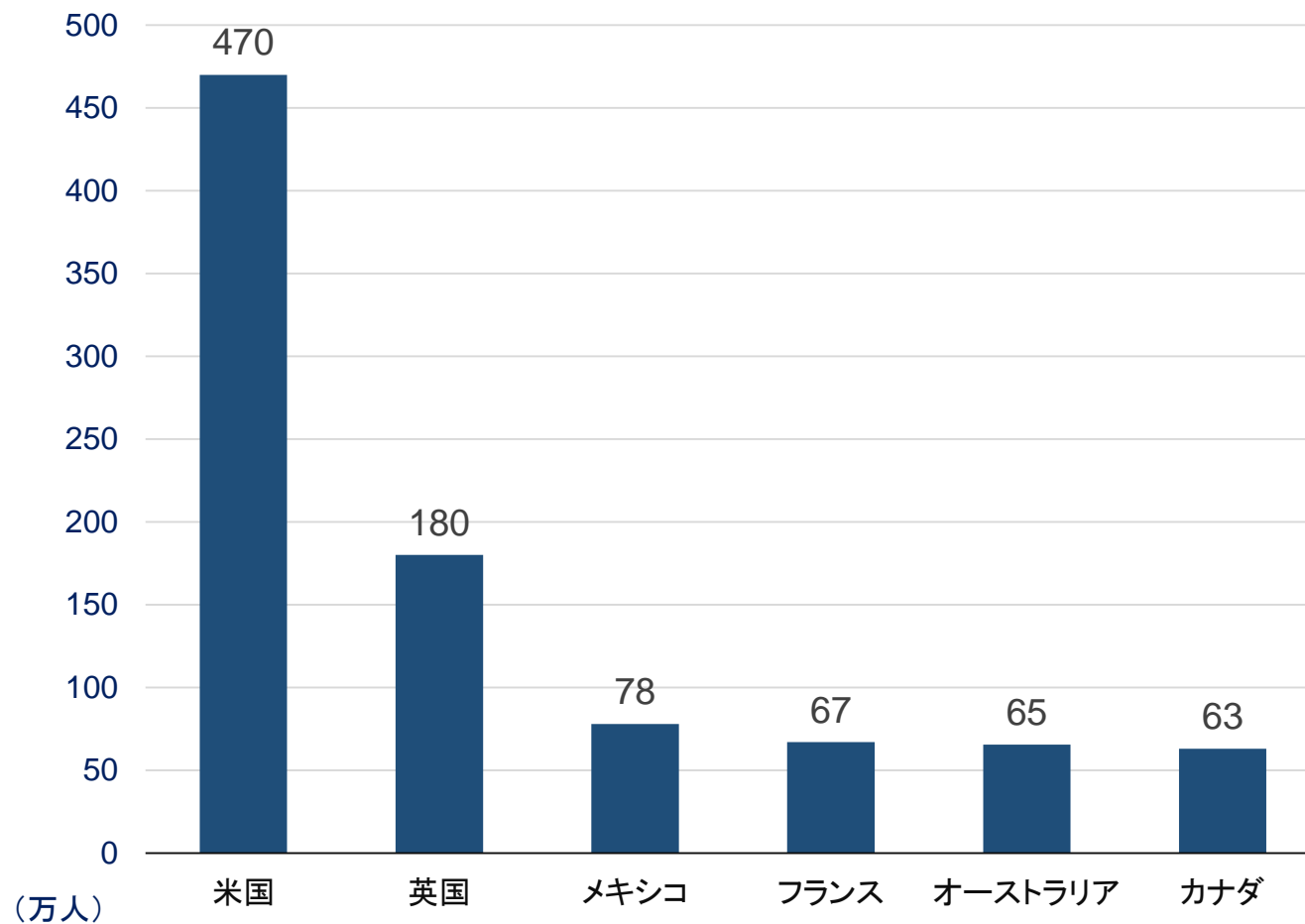
①米国の輸出文化商品の上位商品  
(2015年)



②カナダの文化国際収支  
(2017年)



## 5. 文化の雇用効果



## 6. CSAの成果の普及～カナダの情報発信

### International Trade of Culture Products<sup>1</sup> for 2010-17, Canada

#### Culture Imports

In 2017, imports of culture products totaled \$21.8 billion.<sup>2</sup>



Canada imported the most culture products from the United States, China and United Kingdom.

#### TOP 5 COUNTRIES - CULTURE IMPORTS



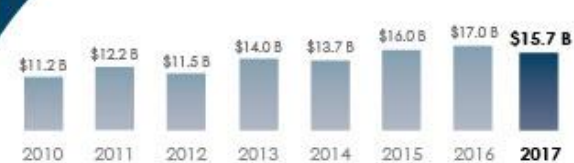
The Crafts, Books, and Film and video sub-domains contributed the most to culture imports.

#### TOP 5 SUBDOMAINS - CULTURE IMPORTS



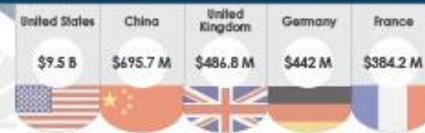
#### Culture Exports

In 2017, exports of Canadian culture products totaled \$15.7 billion.<sup>2</sup>



Canada exported the largest amount of culture products to United States, China, and United Kingdom.

#### TOP 5 COUNTRIES - CULTURE EXPORTS



The Crafts, Film and video, and Governance, funding and professional support contributed the most to culture exports.

#### TOP 5 SUBDOMAINS - CULTURE EXPORTS



<sup>1</sup> Culture products include culture goods and services.

<sup>2</sup> Digital culture products are partially, but not fully, reflected in the trade figures due to limits of the data; as such, certain sub-domains (e.g. Books, Periodicals, and Newspapers) are likely undervalued.

<sup>3</sup> The Crafts sub-domain includes various manufactured products that originate from creative artistic activities. It includes items such as jewelry, pottery, and knives. However, due to measurement limitations estimates of trade for the Craft sub-domain may be overstated.